

別添審議結果

1 まちづくりの理念（全体・テーマ別）（案）

委員

「長崎市重点プロジェクトアクションプラン」では、経済再生プロジェクトと少子化対策プロジェクトを分けて取り纏めているが、女性の社会での活躍推進や男女とも子育てに励む社会においては、経済再生と少子化対策を一体化した取組みが必要である。結婚して、子育てしながら、長崎でやりたい仕事をできるような環境づくりが必要ではないかと考える。

事務局

「長崎市重点プロジェクトアクションプラン」は昨年度策定したもので、資料23ページ「グランドデザインとアクションプランの関係性」における模式図では、グランドデザインは、アクションプランで掲げる経済再生と少子化対策プロジェクトを「まちづくり分野から後押しする」という位置づけを整理している。

模式図上、経済再生と少子化対策プロジェクトを分けて検討していくように見えるが、経済再生と少子化対策の両方に関わるまちづくり施策もあると考えるため、今後、取組み内容を整理していくなかで、資料の取り纏め方を工夫していきたい。

委員

グランドデザインは、これまでの計画を踏まえ後押しする計画として総合的な考察を踏まえた上で取り纏めがなされるものと認識しているが、その観点からすると、取組展開イメージにある「ポテンシャル図」は、まちづくりの理念を考える上で必要な図である。ポテンシャル図を踏まえた総合的な分析を行った上で、まちづくりの理念や方針を定めていくことが検討の流れとして適切ではないか。

事務局

ご指摘のとおり、第2部の説明内容においては近い将来の動きなどを捉え、まちづくりの理念等を検討する流れとしているが、長崎をPRするグランドデザインにしたいという考えもあり、取組展開イメージとしてポテンシャル図とポテンシャルを踏まえた展開イメージ図をセットで作成するという考え方になっていた。グランドデザインの構成として、どちらが良いか検討したい。

委員

まちづくりの方向性を空間に落とし込むことに重きを置いていると思われるため、方針決定段階では空間に落とし込むことを想定した分析がなされるべきと考える。ポテンシャル図を再掲にするなど取り纏め方については、判断をお任せする。

委員

まちづくりの理念がテーマ（A都心部、B地域拠点・生活地区、C斜面市街地、D広域連携、E都心部と周辺部のつながり）別に横並びで整理されているが、A・B・Cと、D・Eは概念が異なる。これを横並びで整理してしまうと、例えば、都心部におけるつながりや地域拠点・生活地区と広域連携との関係性などが明確ではなくなってくるため、この整理方法では不具合であり、再整理が必要ではないか。

事務局

都市計画マスタープランで掲げる将来都市構造「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」をベースとし、エリアづくりとネットワークづくりで整理しており、A・B・Cは「エリアづくりの理念」として、D・Eは「ネットワークづくりの理念」として整理している。詳しくは、第2部で説明させていただく。

2 まちづくりの方針（案）とまちづくりの取組みの方向性（たたき台）

関係人

これからは仕組みづくりが重要であり、場の活用方法などを考えていく必要がある。

B地域拠点・生活地区は北部・東部・南部ありそれぞれのエリアが持つ魅力は変わってくるため、細分化が必要である。

まちづくりの理念（全体）にある「だれもが」という考え方は、SDGsの理念や平和都市を踏まえ長崎らしい未来を考える上では、非常に大切な考え方である。

私が所属する組織のメンバーに率直な意見を聴いたところ、「これは大人たちの為の計画でしょ。」「子どもの意見は採用されないでしょ。」「大人は勝手に決める。」「この検討委員会自体に高校生世代がいないことにはがっかりした。」など、耳が痛くなるような意見ばかりであった。子ども、若者たちの想いを受け止め深掘りし施策に落とし込むこと、パブリック・コメントも1回で終わらせるのではなく、具体的にどのような制度やサポートがあると良いかを突き詰め深掘りしていくべきである。そうした姿勢を行政が見せ、発信することが大事であり、未来を創っていく子どもたちに届かないと意味がない。そうした積み重ねが、長崎に戻ってきたい、帰ってきたいという思いに繋がるのではないかと。

事務局

ソフト施策のうち例えば空間活用については、自己実現や人生を豊かにするために利活用していくというメッセージが伝わるよう取組みたい。

地域拠点・生活地区は、各エリアの特性をポテンシャル図に落とし込み、展開イメージで色分けし、方向性の違いを示していく。

ランドデザインのまとめ方にはなるが、様々な仕組みがある中で、例えばある制度について、「この制度はこう変えた方が良く、このように活用した方が良く」など、制度の在り方や制度を利用した公共空間等の活用方法に関する相談窓口と公共空間等の活用イメージをセットにして、ノウハウ本のようにまとめができればと考える。

関係人

事前にいただいた資料をもとに、私が所属する組織で意見交換をしたところ、率直な意見として資料が分かりづらいという意見があった。

意見交換会を実施しているが、若者の意見がどのように拾い上げられ、グランドデザインにどのように反映されているかが分からない。意見交換会も大切だが、勉強会などを踏まえ実施しなければ、市民が参加するまちづくりにならないのではないか。

私の所属している組織のような第3の居場所はあるが、それ以外にそのような場所がない。あっても情報発信がなされていない。

若者が未来を見据えたときに、ワクワクできるまち、楽しく過ごせるまちになって欲しい。そのためには、若者だけでなく多世代の連携を強化していくべきと考える。

事務局

道路や公園等の公共空間を交流・活動のために気軽に活用できる場にできれば良いと考えている。いただいたご意見を踏まえ、まちづくりの取組みの方向性や取組項目を取り纏めたい。

また、先ほどから、若い世代の意見聴取に関するご意見をいただいている。今回、グランドデザインを検討するにあたっては、具体的な内容が定まっていないなかで意見交換会を実施する試みを行ったが、素案が無いと分からないという意見があり、素案がまとまった段階でもう一度説明を行う予定としている。そのような中で、改めて若い世代の方々にご意見をいただく場を調整したい。

関係人

2050年を目標年次とする計画であるため、ぜひ若者の意見を聴いて欲しい。

学校は、地域の方々にとってとても大切な場所、忘れられない場所であるということを頭の片隅に置きつつ、統廃合後の学校跡地は安易に放置せず、チャレンジする場や遊び場などまちのためになるような使い方をし、子どもが大人になっても戻ってきたいまちとなるよう活用して欲しい。地域には昔から活動されている団体もあるため、そうした団体と連携しながらソフト面の取組みも進めて欲しい。

事務局

ランドデザインの中でどこまで方向性を示すことができるかという課題はあるが、学校跡地の活用にあたっての基本的な考え方として、例えば「地域のコミュニティに根差した活用」や「地域の暮らしを豊かにするための活用」など、大切にしなければならない大きな考え方を示すことができるか検討したい。

関係人

長崎は豊かな自然を感じられることがとても魅力的ではあるが、身近な場所では緑に触れられる公園があまりないように感じる。土地が少ないことに起因するのだろうが何とか緑豊かな自然を感じられる場所を、子育て世帯や高齢者が気持ちよく過ごせる居場所をつくって欲しい。資料の中に分からない言葉が多くあった。

事務局

街区公園という小さな公園が多く点在している状況であり、地域との意見交換会でも「ニーズを反映できている公園が少ない」などのご意見があるなど、あるようで使えていないという実態もある。いただいたご意見を踏まえ、公共空間の活用の方向性を示していきたい。

委員長

現状の資料の整理だと、チャレンジする場は都心部、自然の豊かさは地域拠点・生活地区がイメージされているが、むしろ長崎らしさでいうとそれらはどのエリアにも通底するものではないかと考える。

まちづくりの方向性をいかに分かりやすく伝えられるかが大事な点であるため、今後の素案作成に向けて検討していく必要がある。また、ランドデザイン策定後も継続的に意見交換を行っていく必要がある。

委員

ランドデザインの策定にあたっては、様々な見方や切り口が必要であることを改めて感じた。素案を取り纏める前に、複数の分科会で議論をした上で素案に反映させるプロセスが必要ではないか。

その為にも「7 今後のスケジュール」は見直していただきたい。

また、一旦決まったランドデザインは、状況に応じて変更が必要であるが、これまでの行政の進め方では一旦決まったものはなかなか動かない。そうした事態を防ぐ為にも事前に多様な意見を取り込む機会が必要と考える。

事務局

昨年秋から意見交換会を実施している中で、素案がないと議論できないという意見も多くあった。素案という一つの定規の中で意見を聴く機会を設け、しっかりと意見を反映していく姿勢で取り組んでいきたい。

委員

まちづくりの理念や方針は、様々な世代の方々の意見を聴き検討しているものと理解している。今後、アウトプットを整理する中ではそうした意見がどう反映されているかが分かるよう説明いただければと思う。

色々な方々の意見を聴くにあたっては、長崎市外や長崎県外の方々の意見を取り入れるべきではないか。長期的に企業、人、投資を呼び込む上では、そうした方々の視点で、現在の長崎の何に魅力を感じるか、何が足りないか、将来にどのような期待があるか、知るべきである。

事務局

いただいたご意見を踏まえ資料のまとめ方を検討したい。みんなで作ったランドデザインというように見せられたらと考えている。

委員

スケジュールに不安があるため、委員とのコミュニケーション方法を検討して欲しい。

これまでの議論を拝聴していると、行政と市民の橋渡し役となるアーバンデザインセンターの必要性が端的に表出したように感じた。

だれもが平等にサービスを享受できるという考え方の重要性は感じつつも、急速に人口減少が進展する中においては、例えば、山中に一軒で建つ住宅にも十分な公共サービスを提供することは困難であり、そのことは明言すべきである。まちや地域の人口密度をキープする考え方が背景にあると思われるため、抽象的な言葉をなるべく具現化しながら検討できると良い。

事務局

委員会の場合だけでは皆様の専門的な知見を取り入れることが十分ではないため、改めて意見聴取の方法について検討させていただきたい。

都市計画マスタープランでは持続可能な都市構造を示し、立地適正化計画を定め居住誘導等を推進している。これら計画との関係性などを改めて整理したい。

委員

建設資材の高騰等の影響から幹線道路の整備進捗にも遅れが生じることが懸念されるため、完成時期は明記しない方が良い。

長崎市内では、松が枝埠頭の2バース化や県庁舎跡地活用、長崎港元船地区整備構想、県営バスセンターの建替えなど、県主体の事業も多くある。長崎の未来像をつくっていく上では、長崎県と協力しながら検討していくことも必要ではないか。

全産業で人手不足が1番の問題である中、市内には多くの海外の方が居住し働いている。海外の人も住みたい、住みやすい、住んでよかったというまちづくりは長崎らしさの一つになるのではないか。

事務局

幹線道路の完成時期等については、誤解を与えないような表現となるよう長崎県とも調整しながら記載したい。

特に都心部においては、交流をベースにまちづくりの理念や方針を記載している。その中には、海外との交流や海外からも人材を確保する、呼び込むといった視点が入ってくると考えているため、具体の取組みを進める上で意識していきたい。

委員

資料16ページに、行動指針は「外部環境の変化に応じて適宜見直し」とあるが、5年に一度くらいの間隔で見直していく必要があると考えている。

事務局

行動指針については、新制度や新技術、長崎市を取り巻く環境等を踏まえ適宜見直したい。

委員

資料36ページのまちづくりの方針について、「保護」と「利活用」の視点も重要である。特に、地域拠点・生活地区の「豊かな自然など地区の魅力の活用」についてであるが、各地域の中でも日々の暮らしの中で歴史・文化が培われ、育まれているし、市民意見では「歴史等が活かされていない」といった意見もある。そうした状況をより踏まえると、「豊かな自然・歴史・文化など地区の魅力の保全と活用」という方針に修正すべきではないか。

また、ソフト面の取組みにおいては、高齢者の方が活動できる場所や活動している方がまちづくりに参画する様子などポジティブなメッセージを発信してい

く観点も必要であると考えてる。

事務局

歴史・文化の保全・活用は、地域拠点・生活地区に限らず都心部にも関係する内容であるため、整理の方法を検討したい。

委員

今後、公共空間の活用を推進していくものと認識しているが、例えば、銅座川プロムナードは、使用したくても危険性が高く、環境もきれいではない。加えて使用許可の手続きが煩雑であり、そうしたハードルをクリアして公共空間を活用する人は少ないのではないか。ぜひ、ランドデザインの中で公共空間活用の座組を検討いただきたい

若者の意見を委員会の場合だけでいただくことは難しいため、懇親会などを開催し、意見を汲み上げた方が良いのではないか。

事務局

ランドデザインは大きな方向性を示すものであり、具体の事業展開にあたっては、庁内で取組みを展開していくチームをつくっていきたいと考えている。いただいたご意見をしっかり伝え、念頭に置きながら取組みを進めたい。

この場だけでなく、若い世代のご意見を聴く場を設けたい。

委員

この会議の場以外でも意見交換できる場を設定いただきたい。

今後のポテンシャルが十分に整理されないまま方向性を定めているため、計画をまとめにかかっているように感じる。ポテンシャルの検討にあたっては、エリア単体ではなく、ネットワークを含め総合的に検討することで、B地域拠点・生活地区やC斜面市街地の将来のまちの姿が見えてくるのではないか。そうした整理を前段で行い、そこに地域や若者の意見などを加える配慮をすることで、納得いただける計画になると考える。

その上で、まちづくりの方針や取組みの方向性あたりに、これまでいただいた意見を踏まえた内容を表出ししていく必要がある。

事務局

これまで会議の1週間前位に委員会資料を送付していたが、今後はたたき台が出来た段階で皆様に送付し意見をいただく機会を調整したい。また、特定の専門分野についてはそれを専門とする委員に個別相談させていただきたい。

ポテンシャル図については、図を構成する各レイヤーを重ね合わせ、ポテンシャルを見せられるよう整理する。

委員

若い世代から意見交換を求められる背景には、恐らく、ながさき若者会議の資料にもあるように「交流」「学び」「挑戦」をしたいということがあるのではないか。グランドデザインの策定と同時並行で、一つでも挑戦できる場の確保を進め、長崎市はこういうことを応援していくという姿勢を見せられると良い。そうした挑戦できる場をつくる算段も考えていただければと思う。

委員長

国外の方々も住みやすいまちづくりや高齢者の活躍できる場所、様々な取り組みを行う上でそれを支援する仕組みや体制など、本日は様々なご意見をいただいた。資料を拝見すると国内外など資料中に記載があるものもある。今後は、どこを強調していくのか具体化する中で検討が必要である。

グランドデザインは、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方がベースにあるため、都市計画マスタープランや立地適正化計画との関連性を見せ方を考えていくことが重要である。

現在の地域拠点・生活地区に関する記述内容は、生活地区やその周辺に重点がある印象を受ける。多極ネットワーク型の都市構造を考えると地域拠点が持つ役割は大きく、地域拠点がどうあるべきかをグランドデザインで描ききれていない。

委員会だけでは時間の制約があるため、委員会以外の場でも意見交換を実施する機会を検討して欲しい。

以上